

## 研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-43
研究課題名	頭部外傷初期 CT 所見と MRI 所見（びまん性軸索損傷）、臨床的予後の関係に関する研究
研究期間	西暦 2013 年 5 月（倫理委員会承認後）～2015 年 3 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（CT 画像、MR 画像、診療録）
上記材料の採取期間	西暦 2009 年 1 月～2013 年 3 月
意義、目的	頭部 CT は頭部外傷患者に対し最初に施行される放射線診断学的検査である。その入院時 CT 所見とその後施行される MRI 所見（びまん性軸索損傷）、患者さんの短期予後（早期死亡）、長期予後（glasgow outcome scale）との関係を後ろ向きに調べ、早期 CT 所見がどのように MR 所見、早期予後、長期予後に関係するかを明らかにすることで、その臨床的意義、予後の予測が可能になる。
方法	頭部外傷患者で入院時 3 時間以内に撮影された頭部 CT 所見と 1 ヶ月以内に撮影された MRI（びまん性軸索損傷）、早期死亡、その後の長期予後（外傷半年後の Glasgow outcome scale）との関係を調べる。CT 所見は、マーシャルスコア、ロッテルダムスコアに記載されているものを中心に、MRI はびまん性軸索損傷に関して T2*（スター）強調像、磁化率強調画像、拡散強調像所見を中心に調べる。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学医学部量子診断学分野 講師 麦倉俊司 内線 7312 PHS 5389